平成30年8月11日（土） 岩手日報 4面

経費など厳しい指摘

検討委初会合 研究者は意義強調

ILC 東北誘致

【東京支社】日本学術会議が設置した国際リニアコライダー（ILC）計画の見直し案に関する検討委員会と同検討委技術検証分科会は10日、東京都内で合同の第1回会合を開き、議論をスタートした。参考人として出席した素粒子物理学や加速器の研究者が「科学的意義は大きい」と強調した一方、委員からは多額の経費や関連技術の開発などに厳しい指摘が出た。

検討委の委員長に家泰弘・日本学術振興会理事、分科会の委員長に米田雅子慶応大先導研究センター特任教授を互選。高エネルギー加速器研究機構（KEK、茨城県つくば市）の藤井恵介教授、中野貴志大阪大核物理研究センター長らが計画の意義や加速器の開発状況などを説明した。

初期整備延長を当初の31キロから20キロに変更した理由を問われた藤井教授は「ヒッグス粒子の精密測定には、計画変更後の施設で実施するエネルギーでの実験が最も高い効果を見込める」と指摘。「ILCは非常に大きい科学的貢献が期待できる」と強調した。

委員からは「国の財源が限られる中で多額の経費が必要だ。見合う成果が得られるか」「加速器などはまだ開発段階の技術が多い。準備期間を4年としているが足りないのではないか」との指摘や「環境への配慮がもっと必要だ」として放射性物質への懸念も出た。

国内外の研究者は同計画について年内の政府判断を求めている。同検討委は文科省から依頼を受けた日本学術会議が設置。学術全体における計画の位置付けや費用対効果などを審議し、文科省へ回答する。家委員長は今後の検討スケジュールについて会議後「可及的速やかにと考えているが、十分に審議しないといけない。11月までに終わるかは議論次第だ」と述べた。

検討委、分科会のメンバーは次の通り。

▽**検討委** 小林伝司（大阪大副学長）西條辰義（高知工科大経済・マネジメント学群教授）梶田隆章（東京大宇宙線研究所教授）田村裕和（東北大大学院理学研究科教授）米田雅子（慶応大先導研究センター特任教授）家泰弘（日本学術振興会理事）上坂充（東京大大学院工学系研究科教授）杉山直（名古屋大大学院理学研究科教授）永江知文（京都大大学院理学研究科教授）平野俊夫（量子科学技術研究開発機構理事長）

▽**分科会** 西條、米田、家の検討委メンバー3氏、嘉門雅史（京都大名誉教授）中静透（総合地球環境学研究所プログラムディレクター・特任教授）望月常好（一般財団法人経済調査会理事長）田中均（理化学研究所放射光科学総合研究センター副センター長）